■若手に読んでもらいたい本

戸嶋直樹のおすすめ
山口東京理科大学 名誉教授/東京理科大学 客員教授

分　野：一般
書籍名：街道をゆく
著者名：司馬遼太郎
出版社：朝日新聞社（朝日文芸文庫）
出版年：1978～1998年
価　格：540～1,015円
（新装版1巻あたり）

お正月ですから、家でゆっくり本誌をめくっておられるでしょうか。今回、紹介するのは気楽に読める本です。全43巻もありますから、どれかの巻を読まれた読者も居られるかと思います。

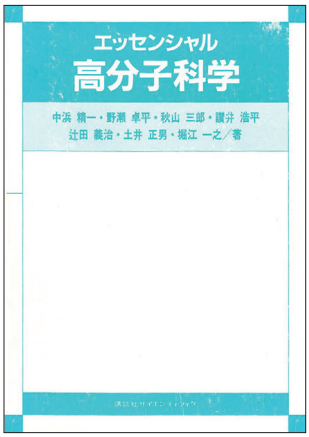
私が本書を手にするのは、国内外を問わず学会などでどこかに出かけるときです。行き帰りの車中で、あるいは機中で、行き先の、あるいはその周辺のことを書いた巻の文庫本を手にするのです。普通、出張で出かけるときには、その地に着いても会場とホテルの間を往復するだけで、訪問地のことは何も知らずに帰ってしまうほうが多いこの頃です。出張の目的からするとそれで十分かもしれません。しかし、このときこの「街道をゆく」を読んでおくと、会場への行き来に街を見る目が違ってきます。司馬は博識で、もちろん彼一流の独りよがりもありますが、その地に関連したいろいろ雑多なことが書かれています。これを読んでおくと、その地をまた違った目で見ることができ、新発見があるのです。

これは研究でも言えることです。若いときにはとかく研究対象だけに集中し、周りに眼が向きません。これも重要なことです。しかし少し視野を広げると、とくに高分子の研究では、周りとの関連がわかってきて、結果的に研究の幅が広がり、より広い分野に適用できる新しい概念の発見・発明につながります。全く無関係と思われたことがSerendipityを育て、独創的成果をもたらします。

私の好きな言葉に「運鈍根」があります。開運のためにも、ちょっと違った分野にも目を向けてください。

■私の役に立った本

山登正文のおすすめ
首都大学東京大学院都市環境科学研究科 准教授



分　野：高分子科学
書籍名：エッセンシャル高分子科学
著者名：中浜精一、野瀬卓平、秋山三郎、讃井浩平、辻田義治、土井正男、堀江一之
出版社：講談社サイエンティフィック
出版年：1988年
価　格：3,204円（税別）

役に立った本として真っ先に思いついたのが本書である。発刊から30年あまり経つが、基礎事項がしっかり学べるコンパクトな教科書としていまだに有用だと思う。本書との出会いは、学部4年生になって研究室に配属され、右も左もわからない状態のころであった。卒論研究のテーマが与えられ、関連する論文とともに購入して勉強するようにと研究室の先輩に紹介されたのが本書である。筆者の不勉強もあって本書の内容が理解できず、何度も何度も読み返したことが鮮明に思い出される。

本書の特徴は高分子の合成と、合成された高分子がどのような構造・物性をもつかがコンパクトかつ整然と記述されている点である。最近の高分子科学の裾野の広がりから、すべての分野を網羅しているとは言えないかもしれないが、高分子科学の基礎事項が学べる教科書である。個人的には巻末にある充実した付録が大いに参考になった。

本書とのかかわりで印象に強く残っているのは、関東高分子若手研究会の世話人だったころ、本書の筆者である中浜精一先生、野瀬卓平先生、秋山三郎先生に「明日を築く高分子科学　～先輩研究者からの熱いメッセージ～」という主題でご講演いただく機会が得られたことだ。当時の世話人の間で本書を越える（？）教科書を執筆したいと大いに盛り上がったのを記憶している。あれから10年が過ぎたが、実現も？である。

©2016 The Society of Polymer Science, Japan